

こうして、わたしたちはローマに着いた。

## クラス④

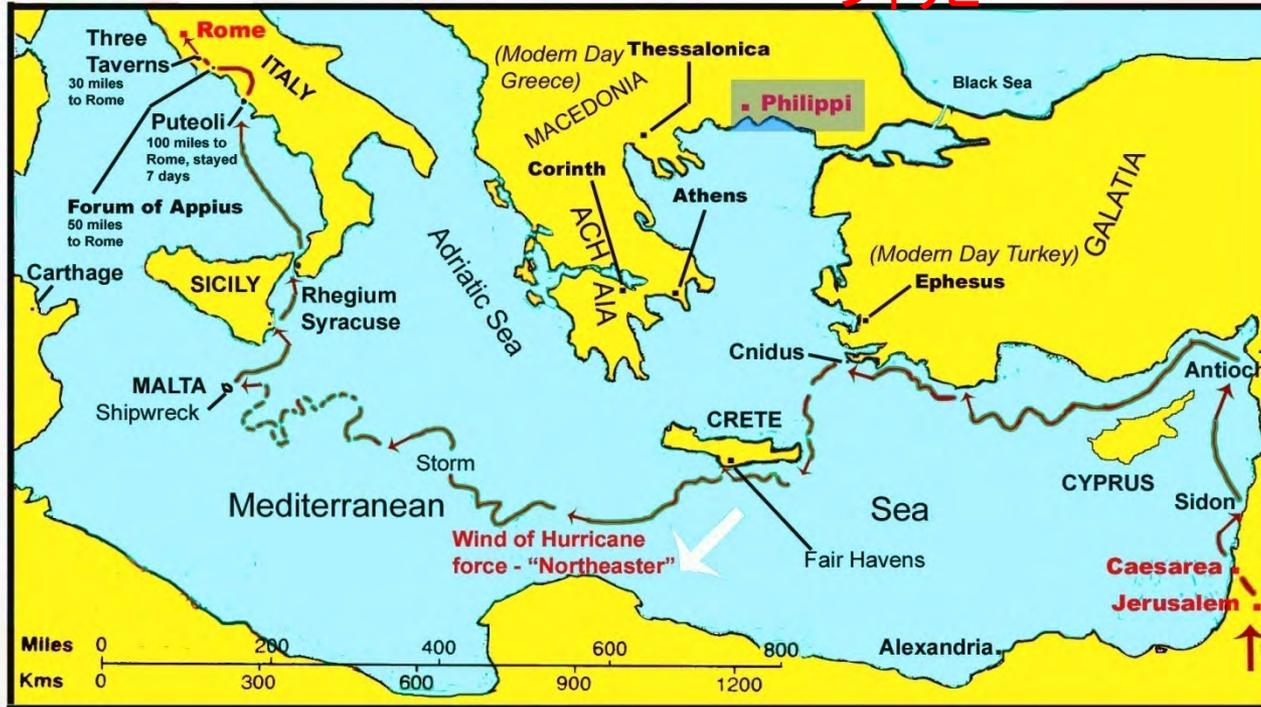
ローマに向かって行く途中の拘留

# パウロの拘留された場所とローマへの旅

## Places of Paul's custody and his voyage to Rome

ローマ

フィリッピ



カイサリア

エルサレム

Copyright 2003 by Central Christian Church.

Legend

- Cities where Paul was held in custody
- Main cities where the gospel spread

ユリウスという百人隊長にパウロが引き渡され、  
ローマへ向かった。

使徒27:1

わたしたちがイタリアへ向かって船出することに決まったとき、パウロと他の数名の囚人は、皇帝直属部隊の百人隊長ユリウスという者に引き渡された。

ユリウスのパウロに対しての態度が  
少しずつ変化することが明らかになり  
ます。

① ユリウスはパウロに対して親切に扱った。

使徒27: 3

翌日シドンに着いたが、ユリウスはパウロを親切に扱い、友人たちのところへ行ってもてなしを受けることを許してくれた。

拘留されている囚人は自分の食料や物の供給を自分の力で手にいれなければならなかった。

②親切であったけれど、パウロの船出するべきではないという助言を完全に無視した。

使徒27:10-11

「皆さん、わたしの見るところでは、この航海は積み荷や船体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすことになります。」しかし、百人隊長は、パウロの言ったことよりも、船長や船主の方を信用した。

- ③ パウロはユリウスを責めたり、彼のせいにしてたりしない中で自分の正しさを主張した。

## 使徒27:21-22、25

27:21 人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立って言った。「皆さん、わたしの言ったとおりに、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を避けられたにちがいません。

27:22 しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出さない。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです

27:25 ですから、皆さん、元気を出さない。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。

- ④ この時点で百人隊長のパウロに対しての信頼と尊敬は増してきた。自分の命と他の兵士達の命をパウロの手に委ねた。

使徒27:30—32

ところが、船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろしたので、パウロは百人隊長と兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない」と言った。そこで、兵士たちは綱を断ち切って、小舟を流れるにまかせた。

その後、パウロは全員を励ました。

使徒27:33-36

夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めた。「今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちに全く何も食べずに、過ごしてきました。だから、どうぞ何か食べてください。生き延びるために必要だからです。あなたがたの頭から髪の毛一本もなくなることはありません。」こう言ってパウロは、一同の前でパンを取って神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。そこで、一同も元気づいて食事をした。船にいたわたしたちは、全部で二百七十六人であった。

パウロがどのように状況判断をしたかをユリウスはしっかり見ていた。パウロは人前で神に祈り、神について全員に語った。

使徒27: 25

「ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。」

- ⑤ 二週間共に旅することによってパウロはユリウスに対して好印象を与えた。その結果、パウロの命が救われ、他の囚人の命も助かった。

## 使徒 27:42-45

兵士たちは、囚人たちが泳いで逃げないように、殺そうと計ったが、百人隊長はパウロを助けたいと思ったので、この計画を思いとどまらせた。そして、泳げる者がまず飛び込んで陸に上がり、残りの者は板切れや船の乗組員につかまって泳いで行くように命令した。このようにして、全員が無事に上陸した。

パウロがユリウスをはじめ他の船に乗っていた  
276人に対してどのような影響を与えたか：

- 1) パウロは勇気を与え、神が全員を助けてくれる信仰を与えた。（使徒 27: 23-25）
- 2) 彼らを励ました。（使徒 27: 36）
- 3) 彼の話に耳を傾けなかったことに関して罪悪感を感じさせなかった。（使徒 27: 21-22）
- 4) 囚人でありながら決して逃げようとはしなかった。

## ⑥ パウロは毒蛇に噛まれた。(使徒28:3)

マルタの原住民たちは彼は「神」だと思った。  
パウロはこのように立場が有利になったことを  
利用して脱走しようとはしなかった。  
逆に彼は人に仕えた。

- ⑦ マルタの原住民から好意を受けたことによってパウロが与えられた「自由」を活かして、パウロは人に仕えた。例えば、その島の長官であるプブリウスの父を癒した。

使徒28:8-9

ときに、プブリウスの父親が熱病と下痢で床についていたので、パウロはその家に行って祈り、手を置いていやした。このことがあったので、島のほかの病人たちもやって来て、いやしてもらった。

パウロは島の「重要人物」だけを助けたわけではない。

⑧百人隊長の囚人であるパウロとの信頼関係は徐々に成長し続けた。プテオリに入港した時にパウロは一週間も弟子たちと一緒に滞在することが許可された。

・使徒28:13-14

ここから海岸沿いに進み、レギオンに着いた。一日たつと、南風が吹いて来たので、二日でプテオリに入港した。わたしたちはそこで兄弟たちを見つけ、請われるままに七日間滞在した。

こうして、わたしたちはローマに着いた。

9) ローマに到着した時点では比較的「軽い」拘留になっていた。

使徒28:16

わたしたちがローマに入ったとき、パウロは番兵を一人つけられたが、自分だけで住むことを許された。

理由は二つあった:

- ① ローマ市民権を保持していたから
- ② 数か月間ユリウスと一緒にいることによって信頼と尊敬を勝ち取ったから

## ディスカッションのための質問:

- 危機的な状況に合う時こそキリストの様に振る舞いますか？それともますますイエスの様でなくなりますか？
- 私たちがキリストの様に歩んでいる姿を見ることによって、信頼を勝ち取った人が周りにいますか？
- 私たちの計画通りにならない時でも神様を信頼し続けますか？

# 暗証聖句

## 使徒26:29

パウロは言った。「短い時間であろうと長い時間であろうと、王ばかりでなく、今日この話を聞いてくださるすべての方が、私のようになってくれることを神に祈ります。このように鎖につながれることは別ですが。」

# 拘留の恥

古代中近東の社会は名誉と恥に対して非常に敏感であった。

旧約聖書の申命記25:3の掟により、一世紀のユダヤ人の中では40回以上の鞭打ちが禁止される法律があった。

申命記25:3

四十回までは打ってもよいが、それ以上はいけない。  
それ以上鞭打たれて、同胞があなたの前で卑しめられないためである。

パウロ自身も拘置されることによって与えられる屈辱感が彼の友人や成し遂げようとしているミッションにどのような影響があるかを気にしていた。例えばフィリピ1:12-14でこのように語っている。:

兄弟たち、わたしの身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったと知ってほしい。つまり、わたしが監禁されているのはキリストのためであると、兵営全体、その他のすべての人々に知れ渡り、主に結ばれた兄弟たちの中で多くの者が、わたしの捕らわれているのを見て確信を得、恐れることなくますます勇敢に、御言葉を語るようになったのです。

また、フィリピ<sup>1</sup>:20でこのように語った:

そして、どんなことにも恥をかかず、これまでのように今も、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストが公然とあがめられるようにと切に願い、希望しています。

## 第二テモテ1:8

だから、わたしたちの主を証しすることも、わたしが主の囚人であることも恥じてはなりません。むしろ、神の力に支えられて、福音のためにわたしと共に苦しみを忍んでください。

使徒28:20 ローマについてこのように語る。

「だからこそ、お会いして話し合いたいと、あなたがたにお願いしたのです。イスラエルが希望していることのために、わたしはこのように鎖でつながれているのです。」